

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】
実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人可児市国際交流協会

1. 事業の概要

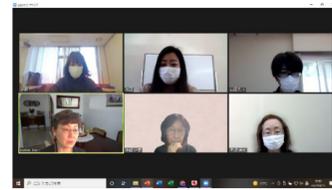
事業名称	地域多文化共生人材育成事業
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<p>可児市は県内でも特に外国人居住者数が多く(7,838人/7.72%)、可児市多文化共生センターフレビア(当協会指定管理者施設)を中心に、日本語教育活動を実施してきた。市内には新しく来日した外国人だけではなく、日本に長年住んでいる人や、日本生まれの人も増加してきたが、日本語教室に参加する学習者はここ近年減少傾向にあり、それまで教室に来ていた学習者も、新型コロナウイルスの感染拡大後は、さらに少なくなっていった。可児市では、市役所や職場にも通訳や翻訳の対応がされている環境があり、日本語が出来なくても仕事に就くことができるため、外国人にとって生活の中での日本語学習の優先順位は低いようだった。地域の中では、地域住民も外国人の存在を認識しているが、それ以上の関わりは求めておらず、さらには新型コロナウイルスの影響もあり、関係は希薄になり続けていた。</p> <p>フレビアで実施している日本語教室は、現在も様々な地域から学習者を受け入れて実施している。しかし、フレビアがある下恵土地区は、外国人集住地ではないため、より多くの人に学習の機会をと思い、市内外国人集住地である、土田・今渡地区への開設を目指し、昨年度日本語支援者養成講座を実施した。今年度は日本語教室の養成講座受講者とともに開講、教室実施の定着を目指し、学習者が、生活圏内、住まいの近くに教室があれば参加するのを見極めたかった。それと同時に、学習意欲につながる要因を探り、フレビアで実施している教室と並行して、可児市の日本語教育の在り方について見直す必要があった。</p> <p>当協会が取り組む「生活者としての外国人」への日本語教育事業は、日本語学習支援だけではなく、誰もが安心安全の生活ができる、多文化共生のまちづくりを目指していくことである。そのために、当協会だけが活動するのではなく、地域住民一人ひとりが意識を持つ必要があるため、日本語教室を通して地域住民とつながる場をつくり、「生活者としての外国人」に関わる人や組織等、地域全体が連携しながら、多文化共生のまちづくりを進めていくことではないかと感じている。</p>
事業の目的	<p>誰もが安心安全な生活を送ることができるよう、在住外国人と日本人が「参加」「協働」し、日本語教室を通じたまちづくりを進める。そのためには、日本人と外国人が集う日本語教室が必要であり、従来からある日本語教室と新設する今渡地区(市内集住地区)の教室実施を定着させ、地域住民がつながれる場を作る。</p> <p>日本語教室に関わる支援者を増やし、また、多文化共生の意識を持った在住外国人や地域住民、支援者を育成するために、まちづくり講座を実施、コロナ等の事情により、教室とつながりをなくしてしまった学習者に、対面以外のアプローチができるよう、多様な指導法を学ぶ研修を行う。</p>
本事業の対象とする空白地域の状況(空白地域を含む場合のみ記入)	
事業内容の概要	<p><日本語教育の実施> 多文化共生センターフレビア(当協会指定管理施設)と、今渡の教室(市内集住地)を実施。 ■フレビア:土曜日(夜19:00~20:30)、日曜日(昼13:30~15:30) 生活場面に密着した(買い物、銀行、病院、防災など)会話・対話活動を行い、防災などの体験型の内容も織り交ぜた。 土曜日は、漢字クラスも設置した。 ■オンラインクラス:第1・3土曜日19:00~20:30 ★新設 基礎会話クラスと基礎漢字クラスを設け、Zoomを使って生活に必要な日本語を対話を通して学習するクラス。 ■今渡クラス(今渡地区センター):日曜日(朝10:00~11:30または13:30~15:00) ★新設 日本語での対話活動を通して、地域住民の顔が見える教室。地域ならではの行事や地区センターの活動に日本語教室が参加して、住民同士が楽しみながら協働できる場づくりをした。 昨年度の養成講座参加者を主体として、今年度は教室開催を定着させることができた。</p> <p><日本語教育を行う人材の養成・研修の実施> 多様な団体・機関との連携をしていくために、他地域の事例を学び、多文化共生のまちづくりに向けて協働していく支援者を増やす講座を実施。講座には、行政や自治会関係者の参加もあり、多文化共生の意識を持った人が増えることで、安心安全に暮らせる可児のまちづくりに少しつながった。 そして、昨今の新型コロナウイルス感染拡大等の理由により、教室とのつながりをなくしてしまった学習者に対して、対面以外でのアプローチする方法を学び、主にオンライン教室の内容について考えた。</p> <p><教材作成> 2020年度、従来より取り組んでいたポートフォリオについて見直すため、「さまざまな手法や評価について学ぶ研修会」を行い、研修期間、支援者で話し合い、ポートフォリオを作成し、学習者には座談会で、ポートフォリオの有効性や意義についてヒアリングをした。 参加した支援者や学習者からは様々な意見が出たが、それだけ日本語学習に目標を持って向き合っていることがわかり、その思いを込めて支援者と学習者でポートフォリオを教材として、仕上げていくことにした。 プログラム(A)3年目である今年度は、検証してきたポートフォリオや評価シート(Candoシート)をベースに、さらに改善しながら、完成させた。</p>
事業の実施期間	令和 3年 5月~令和 4年 3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	米勢 治子	東海日本語ネットワーク 副代表
2	小島 祥美	東京外国語大学 准教授
3	松井 かおり	朝日大学 教授
4	高山 裕規	岐阜県国際交流センター 業務推進課長
5	加藤 エジソン	可児市役所 人づくり課 主査
6	山田 久子	多文化演劇ユニットMACHI 代表
7	各務 眞弓	可児市国際交流協会 事務局長
8	近藤 利恵	可児市国際交流協会 事務局次長
9	菰田 さよ	可児市国際交流協会 日本語講師



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年8月12日 (木) 13:00~15:30	2.5時間	可児市多文化共生センターフレビア・ZOOM	米勢 治子・小島 祥美 松井 かおり・高山 裕規 山田 久子・各務 眞弓 近藤 利恵・菰田 さよ	1. 自己紹介 2. 今年度の各取組内容について
2	令和4年3月15日 (火) 15:30~18:00	2.5時間	可児市多文化共生センターフレビア・ZOOM	米勢 治子・松井 かおり 山田 久子・各務 眞弓 近藤 利恵・菰田 さよ	1. 今年度の各取組の振り返り 2. 今後について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	日本語教育に関しては、可児市多文化共生センターフレビアを中心とし、新設する土田・今渡地区とともに、地域住民と在住外国人がつながる場を作り続けたが、多文化共生のまちづくりのためには、日本語教室に関わっていない住民の理解や関わりが必要であったため、自治会、行政・地区センター・企業・地域のコミュニティ等も巻き込み、市内様々な機関と連携・協力した。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	全体、各教室や、各取組(教室運営の他に研修、教材作成)に、中核コーディネーターをそれぞれ置いた。従来から携わっている者の他に、今年度は、2020年度当協会が坂祝町の再委託で行った「地域で活躍するためのコーディネーター研修」で受講した者を新しく配置した。また、当協会には、文化庁地域日本語教育アドバイザーも在籍しているため、常に相談や確認ができる環境にあった。中核コーディネーターが、具体的な教室運営や講座の実施など本事業の業務を遂行した。
----------	---

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：日本語教室】										
取組の目標	学習者が日本語教室での活動を通して、 ①教室で学習した日本語が、学習者の日々の生活に生きること ②学習者が日本語をツールとして、安心・安全に暮らすことができること ③教室が学習者にとって、地域での居場所のひとつとなること ④教室と地域のつながりが増える、広がること また、そのための地域づくりに教室として、貢献すること									
内容	生活に必要な日本語を、会話・対話活動を通して学ぶ教室。 ■土曜日日本語教室 対面 19:00～20:30 1.5h オンライン 19:00～20:00 1h ※施設の利用条件に応じて実施 ①日常生活に必要な日本語を学ぶ、会話・対話中心のクラス ②漢字クラス ■日曜日日本語教室 対面 13:30～15:30 1.5h オンライン 13:30～14:30 1h ※施設の利用条件に応じて実施 日常生活に必要な日本語を学ぶ、会話・対話中心のクラス ■第1・3 オンラインクラス 第1・3土曜 19:00～20:30 ★新設 ①日常生活に必要な日本語を学ぶ、基礎的レベルの会話・対話クラス ②生活の中でよく見る・使う簡単な漢字 ■ワタシバ(今渡日本語教室) (10:00～11:30 または 13:30～15:00) ★新設 日本語での対話活動を通した、地域住民同士の顔が見える教室									
実施期間	令和 3年 8月 1日～令和 4年 3月 12日	授業時間・コマ数	[土曜日] 1回 1.5時間 × 10回 = 15時間 1回 1時間 × 4回 = 4時間 [日曜日] 1回 2時間 × 10回 = 20時間 1回 4時間 × 1回 = 4時間 1回 1時間 × 4回 = 4時間 [オンライン] 1回 1.5時間 × 11回 = 16.5時間 [ワタシバ] 1回 1.5時間 × 3回 = 4.5時間 【総合計】68時間							
対象者	日本語を学習したい人	参加者	総数 308 人 (受講者 129 人, 指導者・支援者等 28 人)							
カリキュラム案活用	【生活上の行為の事例】と「日本語能力評価」: CanDoリストの項目を参考にした。 「教材例集」: 会話活動のテーマを参考にした。「ガイドブック」: コーディネーターがコースデザインを参考にした。 「指導力評価」: 日本語教育に関わる人たちの資質・能力の点検を活用した。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	土曜日日本語教室									
	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			7	1			1	2	21	
	オランダ(1人)、アメリカ(1人)、メキシコ(1人)									
	日曜日日本語教室									
	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	1		15	2				4	30	
	第1・3土曜日 オンライン教室									
	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
								1	37	
メキシコ(1人)、パキスタン(1人)										
ワタシバ(今渡日本語教室)										
中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
		1					1	1		
メキシコ(1人)										
日本語教育の実施内容【土曜日日本語教室】										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年8月21日(土) [会話]19:00～20:00	1	ZOOM	14	会話・漢字	[会話] 交通ルール [漢字] 作文を書こう	4名	-		
	[漢字]18:30～20:00	1.5								
2	令和3年9月11日(土) 19:00～20:00	1	ZOOM	6	会話	[会話] 家の中にあるもの	3名	-		

3	令和3年9月25日(土) 19:00~20:00	1	ZOOM	3	会話	[会話] 思い出の品を紹介する	2名	-
4	令和3年10月2日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化 共生センターフ レピア	7	会話・漢字	[会話] 休みの日の過ごし方 [漢字] 尊敬語・謙譲語・丁寧語	4名	-
5	令和3年10月16日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化 共生センターフ レピア	3	会話・漢字	[会話] 買い物 [漢字] 前回の復習と日本語の話し方	3名	-
6	令和3年10月23日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化 共生センターフ レピア	10	会話・漢字	[会話] 命を守ろう [漢字] 動詞の改まった言い方	4名	-
7	令和3年11月6日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化 共生センターフ レピア	7	会話・漢字	[会話] 友達と出かける [漢字] 敬語	3名	-
8	令和3年11月13日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化 共生センターフ レピア	6	会話・漢字	[会話] 110番・119番の電話をかける [漢字] ニュースに出てくる漢字	3名	-
9	令和3年11月27日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化 共生センターフ レピア	9	会話・漢字	[会話] 日本語でできるようになりたいこと [漢字] 敬語(動詞)	4名	-
10	令和3年12月4日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化 共生センターフ レピア	8	会話・漢字	[会話] 服装 [漢字] 年末年始の過ごし方 地域に住んでいる日本人と話そう (多文化共生のまちづくり講座)	4名	-
11	令和3年12月18日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化 共生センターフ レピア	1	会話・漢字	[会話] 手紙を書く [漢字] 日本語の目標	2名	-
12	令和4年1月15日(土) 19:00~20:30	1.5	可児市多文化 共生センターフ レピア	4	会話・漢字	[会話] カレンダー [漢字] わかりにくい漢字・日本の文化	3名	-
13	令和4年1月22日(土) 19:00~20:00	1	ZOOM	5	会話・漢字	[会話] 年末年始の思い出 [漢字] 敬語(動詞)	4名	-
14	令和4年1月29日(土) 19:00~20:00	1	ZOOM	4	会話・漢字	[会話] 日本と母国の違い [漢字] 敬語(動詞)	3名	-

日本語教育の実施内容〔日曜日日本語教室〕

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年8月1日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	4	生活に必要な会話	家族	菰田 さよ	3名
2	令和3年8月22日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	6	生活に必要な会話	道を案内する	菰田 さよ	3名
3	令和3年8月29日(日) 13:30~15:30	1	ZOOM	5	生活に必要な会話	今、一番会いたい人	菰田 さよ	3名
4	令和3年9月12日(日) 13:30~14:30	1	ZOOM	2	生活に必要な会話	フリーテーマ (学習者が聞きたいことを質問する)	菰田 さよ	1名
5	令和3年9月26日(日) 13:30~14:30	1	ZOOM	1	生活に必要な会話	思い出の写真	菰田 さよ	2名
6	令和3年10月3日(日) 13:30~14:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	4	生活に必要な会話	一年の行事	菰田 さよ	3名
7	令和3年10月17日(日) 10:30~13:30	4	我田の森	14	生活に必要な会話	竹あかりを作ろう	里山クラブ 菰田さよ	3名
8	令和3年10月24日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	16	生活に必要な会話	ストレス解消法	菰田 さよ	4名
9	令和3年11月14日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	6	生活に必要な会話	日本語の目標	菰田 さよ	5名
10	令和3年11月28日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	7	生活に必要な会話	先週したこと	菰田 さよ	5名
11	令和3年12月5日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	7	生活に必要な会話	コンビニを利用する	菰田 さよ	3名
12	令和3年12月19日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	5	生活に必要な会話	オススメのお店	菰田 さよ	4名
13	令和3年1月16日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	7	生活に必要な会話	年末年始の思い出	菰田 さよ	4名
14	令和3年1月23日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レピア	8	生活に必要な会話	防災ワークショップ	多文化演劇 ユニットMACHI	3名
15	令和3年1月30日(日) 13:30~14:30	1	ZOOM	3	生活に必要な会話	1週間の予定	菰田 さよ	3名

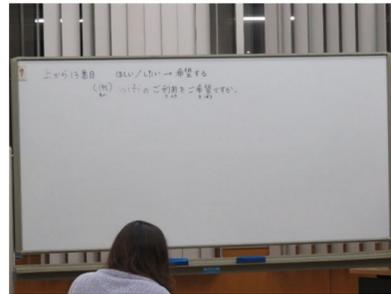
日本語教育の実施内容〔第1・3オンライン教室〕								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年8月7日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	11	基礎会話 基礎漢字	〔会話・漢字〕自己紹介	馬淵 愛 菰田 さよ	-
2	令和3年8月21日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	10	基礎会話 基礎漢字	〔会話〕これ/それ/あれ 〔漢字〕一日の生活	馬淵 愛 菰田 さよ	-
3	令和3年9月4日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	12	基礎会話 基礎漢字	〔会話〕私の一日 〔漢字〕休みの日	馬淵 愛 菰田 さよ	-
4	令和3年9月18日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	15	基礎会話 基礎漢字	〔会話・漢字〕買い物	馬淵 愛 菰田 さよ	-
5	令和3年10月2日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	9	基礎会話 基礎漢字	〔会話〕カレンダー・家族 〔漢字〕気持ち	馬淵 愛 菰田 さよ	-
6	令和3年10月16日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	7	基礎会話 基礎漢字	〔会話〕反対の言葉 〔漢字〕食べ物	馬淵 愛 菰田 さよ	-
7	令和3年11月6日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	7	基礎会話	〔会話〕病院へ行く	馬淵 愛 菰田 さよ	-
8	令和3年11月20日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	9	基礎会話	〔会話〕日本語で できるようにしたいこと	馬淵 愛 菰田 さよ	-
9	令和4年1月15日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	6	基礎会話	〔会話〕年末年始にしたこと	馬淵 愛 菰田 さよ	-
10	令和4年2月5日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	11	基礎会話 基礎漢字	〔会話〕レストランへ行く 〔漢字〕自己紹介	馬淵 愛 菰田 さよ	-
11	令和4年3月12日(土) 19:00~20:30	1.5	ZOOM	7	基礎会話 基礎漢字	〔会話〕家の中にあるもの 〔漢字〕ニュースの中にある漢字	4名	-
日本語教育の実施内容〔ワタシバ(今渡日本語教室)〕								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年9月12日(日) 10:00~11:30	1.5	今渡地区セ ンター	1	会話	日本の生活	菰田 さよ	(6名)
2	令和3年11月21日(日) 10:00~11:30	-	今渡地区セ ンター	-	会話	新型コロナウイルス感染拡大の為、施設使用不可のため中止		
3	令和3年12月19日(日) 10:00~11:30	1.5	土田地区セ ンター	1	会話	買い物	菰田 さよ	(4名)
4	令和4年1月16日(日) 10:00~11:30	1.5	今渡地区セ ンター	2	会話	お正月の遊び	菰田 さよ	(6名)
5	令和4年2月12日(日) 10:00~11:30	-	今渡地区セ ンター	-	会話	新型コロナウイルス感染拡大の為、施設使用不可のため中止		

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第6回 令和3年10月23日(土)】:土曜日日本語教室

会話クラスでは「防災」について学習者と会話を進めた。日本でどんな災害が起こるか、テレビで見たり情報は知っていても、可見市では近年大きな災害による被害はなく、外国人にとっても身近ではないため、防災の意識も低い。教室では、災害や防災の知識を「教える」というよりも、自国の災害や防災の話しながら、学習者自身の居住地の近くの避難所はどこか、避難所に何を持っていくかについても、一緒に考えた。漢字クラスに参加する学習者は、コロナに関係なく継続して参加しており、どんどんレベルも上がってきている。教室内で漢字にだけ取り組むのではなく、日本の生活(日本・日本人あるある)や、敬語などといった多様な内容で教室展開をしており、この日は動詞の改まった言い方を学習した。日頃使いこなしている日本語の言葉を、改めて熟語等で言い換えることで、「聞いて理解する」だけでなく、自分自身で少しずつ使っていけるようになった。



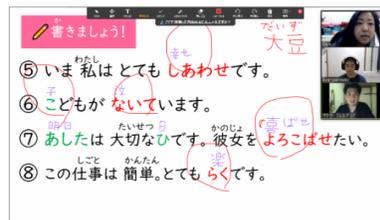
○取組事例②

【第7回 令和3年10月17日(日)】:日曜日日本語教室
 可児市内にある我田の森へ行き、森の管理・運営をしている里山クラブのみなさんと、竹を使ったあかりづくりをした。コロナ禍となり、外出や体験を通じた日本語学習の機会をつくることができなかったが、準備や対策をとることで、里山クラブのみなさんが受け入れてくださった。作品作りは、一人ひとりが集中する作業だったが、作業の方法やコツを教えていただき、作業を進めながらも、日々の生活についてや母国の食べ物などの会話が弾んだ。
 また、この機会を通して、感染が拡大してから教室に来られていなかった学習者の久しぶりの参加、またその後の教室への参加に繋がった。作った作品は、可児市多文化共生センターフレビアで開催されたランタンフェスティバルで展示された。



○取組事例③

【第5回 令和3年10月2日(土)】:第1・3 オンライン日本語教室
 基礎会話クラス:カレンダー・家族、基礎漢字クラス:気持ちをテーマに、生活の中で使う語彙や会話、漢字を学習した。対面ではなく、Zoomならではの機能である、家にある実物を見せたりしながら会話を進めた。基礎漢字クラスでは、Zoomの「コメントを付ける」の機能を使用し、学習者の漢字を書く様子を見ながら進めた。



○取組事例④

【第4回 令和4年1月16日(日)】:ワタシバ(今渡日本語教室)
 「お正月」をテーマに、参加者の国であるメキシコやインドネシアの文化や日本での過ごし方を話した。百人一首やかかるた、ふくわらいなどを体験しながら、日本語の学習につなげた。学習者は百人一首にある昔の文字(ゑ・ゐなど)に興味を持っており、全員での「ぼうずめくり」はとても盛り上がった。



(2) 目標の達成状況・成果

【土曜日・日曜日】
 昨年度に比べ対面で実施できた日が多く、教室を実施し続けられたことで、学習者に日本語学習の場を提供することができ、施設が使用できない際のオンラインへの切り替えについても支援者はスムーズに対応することができた。
 また、可児市内にある我田の森を運営する「里山クラブ」のご協力のもと、可児市多文化共生センターフレビアのフェスティバルで展示する竹あかりづくりを行った。この竹あかりづくりと防災ワークショップが唯一、地域の人を巻き込みながら実施できた内容であった。
 特に竹あかりづくりでは、コロナを機に教室に来なくなった学習者にアプローチしたところ、参加に繋がりと、その後の教室にも参加したことで、このコロナ禍での日本語教室への参加には、何か“きっかけ”が必要であると感じた。また、料理や制作など、地域の人たちを巻き込んだ体験活動は、通常の教室支援者だけではなく、学習者自身も楽しみにしているのだと感じた。コロナ前と同じようには簡単には戻れないが、Withコロナでの活動・教室内容を積極的に考え、実施していきたいと感じた。

【オンライン】
 オンライン教室を始めた当初は、昨年度の振り返りから、①これまで固定したオンラインクラスがなかった(施設が使えない時のみオンラインを実施していた) ②オンラインで学習者と繋がりを維持することで、対面の学習者を増やしたい。という想いがあり、今年度固定日時でのオンライン教室を実施することにした。対面と並行しての開催を予定していたが、人員・スキルの問題から、別日程での開催とした。
 実施したところ、固定としたことで学習者への周知や、学習者自身での予定管理が容易になった。そしてオンラインで参加する学習者の継続率は高く、対面よりも安定して一定数の学習者の参加がいた。オンラインのメリットは、コロナの恐怖だけではなく、小さな子どもがいて外出が難しい保護者や、家族と一緒に受けられることで安心できるというニーズがあり、実施したことで今まで応えられていなかった人たちに学習の場を提供することができた。
 また、教室への参加にあたり、ZoomのIDや詳細の連絡をメッセージで個別対応にすることで、メッセージを日頃から使用している学習者にとって気軽に参加することができたように思う。
 また、オンラインに参加した何人かの学習者がフレビアでの対面の教室への参加にもつながった。

【ワタシバ(今渡日本語教室)】
 2020年度の養成講座の参加者7名と一緒に会議を繰り返し、市内集住地である今渡地区で日本語を使って活動する場「ワタシバ」を立ち上げた。「ワタシバ」という名前には、私の場所・人との橋渡し・今渡の地名由来(渡し場)という意味が込められている。
 初回を9月に予定していたが、コロナの感染状況が悪くなり延期、11月に第1回目を実施した。
 第1回 今渡地区センター、第2回 土田地区センター(今渡地区センターが工事で使用できなかったため)では、その近くに住んでいる学習者の参加があった。どの回も学習者の参加は少なく、周知ができていないように感じているが、教室の日本語支援者以外の、地域の中で関わる支援者ではない日本人(自治会関係者)の参加もあり、集住地で外国人を身近に感じていても、接点やきっかけがない日本人住民にとっては、参加しやすい場となっているようだった。このような場が地域に増えることが、多文化共生の促進につながると感じた。

(3) 今後の改善点について

<p>【土曜日・日曜日】 どちらの教室にも共通することだが、教室運営をすることに気持ちが偏り、教室内容やその他運営面について、支援者同士とも、学習者とも振り返ることができていなかった。 支援者と教室運営・内容を考えたり、話したりする時間が少ないために起こる、支援者とのずれなどが生じてしまったように感じた。教室運営を“そのまま”にしないで、支援者や学習者と話し合う時間を多く作って、日本語教室を実施していきたい。そうすることで、支援者全体が教室運営に関われるようになり、支援者も学習者も参加したくなる、よりよい教室となることを期待したい。</p>
<p>【オンライン】 オンライン教室の実施は、固定(第1・3土曜)のオンラインと、コロナにより対面での実施ができない代替りのクラスの2パターンがあった。固定のオンラインは、教室の支援者を巻き込めず、1名でコーディネーター・指導者を兼任していた。巻き込めなかった理由として、①実施していた内容のハードルが高く(Zoomスキルや準備の面で)関わりにくい ②できれば対面で関わりたいという支援者の想いが強かったためである。このことから、オンライン研修会を実施し、支援者同士でオンライン教室の在り方について検討する機会を設けた。(内容については取組2を参照)しかし、今後継続していくにあたって、内容・方法・体制を見直し、オンライン教室の継続の必要性を支援者に少しずつ理解してもらうとともに、継続していくためにも、支援者が関わりやすい方法を模索し、考えていかなければならない。</p>
<p>【ワタシバ(今渡日本語教室)】 学習者の参加が少なく、教室の周知が不足している。また、可児市の在住外国人の80%以上を占めるフィリピン・ブラジル人の参加がほとんどない。“学習者にとって、生活圏内・住まいの近くに教室があることが、日本語学習意欲につながるか”の検証では、事業内では3回しか実施できていないためその答えは出ないが、今後も継続していきながら、ニーズ・内容・運営方法を再検討していきたい。 土田地区での開催については、今後検討していく。</p>

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称:①【養成】多文化共生のまちづくり講座 ②【研修】オンライン研修会】										
取組の目標	<p>昨年度、土田・今渡地区(市内集住地)の新規開設に向けた支援者養成講座を実施する中で、教室開設や日本語学習支援だけでなく、自治会や地区センター職員、地域住民等、地域全体のつながりが、安心安全のまちづくりになると感じた。多様な機関とどのように連携し、働きかけることが必要なのか、様々な視点や事例から学び、考える。 そして、受講者それぞれが活動する場所での課題解決に向けたアプローチの方法を、知識を得ながら今後のヒントを見つけしていく。多文化共生のまちづくりに向け活躍できる人材の養成を目指すとともに、その意識を持った日本語学習支援者を増やすための講座。 また、昨年度から実施しているオンラインでの日本語教室について、より充実した内容となるよう、研修を通してオンラインの日本語教室を考え、今後安定して教室運営をできるような力を身に付ける。</p>									
内容	<p>①【養成】多文化共生のまちづくり講座 日本語教室支援者、在住外国人(日本語教室学習者)、行政職員・地区センター・自治会、まちづくりに興味がある人を主な対象にし、講座での学びを、それぞれの活動場所や地域の中で生かし、地域力の向上につなげた。</p> <p>②【研修】オンライン研修会 日本語教室サポーターのスキルアップ、オンライン教室の実施・定着ができるようになるために、オンラインと対面の日本語教室の内容・方法の工夫、コロナ等の理由により、日本語教室に参加できていない学習者となつがる方法を学んだ。 講座では、日本語教室サポーターを中心に教室内容を企画・実践をした。</p>									
実施期間	①令和3年8月29日～令和3年12月5日 ②令和4年2月24日～令和4年3月13日	授業時間・コマ数	①1回 2時間 × 9回 = 18時間 ②1回 2時間 × 6回 = 12時間 【計30時間】							
対象者	①日本語教育・多文化共生に興味のある方 ②日本語学習支援(オンライン含む)を行っている方、地域日本語教育に関わっている方等	参加者	① 総数 106人(受講者 33人、講師等 9人) ② 総数 89人(受講者 70人、講師等 5人)							
カリキュラム案活用	「日本語教育人材の養成・研修の在り方について」を参考とし、「地域日本語教育コーディネーターに求められる資質・能力」や「日本語学習支援者に求められる能力・資質」の項目を参考に内容の点検・改善を行った。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
①			1							32
受講者の出身(ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
②										70
養成・研修の実施内容《多文化共生のまちづくり講座》										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年8月29日(日) 10:00～12:00	2	ZOOM	13	まちづくりを考える ～関市の事例から～	・まちづくりNPOぶらめんの関市での事例 ・「まちづくり」のポイント	北村 隆幸	-		
2	令和3年9月5日(日) 13:30～15:30	2	ZOOM	11	可児市国際交流協会の 今までとこれから	・可児市国際交流協会の多文化共生に ついての取り組み内容と、今後について	各務 眞弓	-		
3	令和3年10月10日(日) 10:00～12:00	2	可児市多文化 共生センターフ レミア・ZOOM	12	家づくりを通じた まちづくり ～防災キャンプの 取組から～	・不動産会社の多文化共生に向けた取組 み ・在住外国人の住宅購入状況について	山口 真智子 伊藤 有沙	-		
4	令和3年10月24日(日) 10:00～12:00	2	今渡地区セン ター・ZOOM	7	公民館活動としての 日本語教育	・長野県飯田市における公民館での 地域日本語教育の取り組みについて	大澤 志那子	-		
5	令和3年11月7日(日) 13:30～15:30	2	今渡地区セン ター・ZOOM	17	地域の情報やチラシを 「やさしい日本語」に して 伝えよう	・回覧板の手紙やニュース原稿を やさしい日本語におきかえるワークショップ	米勢 治子	-		
6	令和3年11月14日(日) 10:00～12:00	2	今渡地区セン ター・ZOOM	16	隣近所の多文化共 生 ～芝園団地の 実態の実践～	・芝園団地におけるこれまでの多文化共生 に 向けた取組紹介 ・「共存」と「共生」とは	岡崎 広樹	-		

7	令和3年11月28日(日) 10:00~12:00	2	今渡地区センター・ZOOM	16	多文化社会 コーディネーターの 役割とは	・多文化社会コーディネーターの役割	松岡 真理恵	-
8	令和3年12月4日(土) 18:45~20:45	2	可児市多文化 共生センターフ レビア	5	地域に住んでいる 外国人と 日本語で話そう	・フレビアの日本語教室について、見学 ・日本語教室学習者と意見交換	菰田 さよ	-
9	令和3年12月5日(日) 10:00~12:00	2	可児市多文化 共生センターフ レビア・ZOOM	9	講座全体の 振り返り 今後に向けて	・今後地域の日本語教室(主にワタシバ)を どのような場所にしていけるか ・それぞれの所属場所で取り組みたい 内容を 宣言する	菰田 さよ	-
養成・研修の実施内容《オンライン研修会》								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和4年2月24日(木) 18:30~20:30	2	ZOOM	50	オンライン授業に役立 つ！ ICT×地域日本語教育	・オンライン指導で活用できるツールの紹介 ・Jamboardを使った実践練習	柏谷 涼介	-
2	令和4年2月27日(日) 15:00~17:00	2	ZOOM	22	岐阜で過ごした3年間 ～技能実習生の立場 から 見た日本語教室～ 日本語支援者 交流会	・技能実習生の立場から見て、地域にどん な 教室を求めめるか ・日本語教室支援者の交流会	Zarda Arby Akramul Hambaly Habirun	-
3	令和4年3月5日(土) 15:00~17:00	2	ZOOM	5	オンライン教室の計画 (土曜日支援者向け)	・これまでのオンライン教室の振り返り ・どんな工夫ができたらいいか ・実践に向けた計画	菰田 さよ	-
4	令和4年3月6日(日) 13:30~15:30	2	可児市多文化 共生センターフ レビア・ZOOM	6	オンライン教室の計画 (日曜日支援者向け)	・これまでのオンライン教室の振り返り ・どんな工夫ができたらいいか ・今後日本語教室にどう取り入れていくのか	菰田 さよ	-
5	令和4年3月12日(土) 18:45~20:45	2	ZOOM	4	実践	[会話]家の中にあるもの [漢字]ニュースの中にある漢字 支援者内での振り返り	菰田 さよ	-
6	令和4年3月13日(日) 10:00~12:00	2	ZOOM	20	教育のユニバーサル デザインとは ～様々な特性と 学習スタイルを知る～	地域日本語教室に参加する学習者の、 背景や内面も多様化する中で、どんな教室 づくりができるのか、また、オンライン多読 の実践について	横山 りえこ	-

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

多文化共生のまちづくり講座【第5回 令和3年11月7日(日)】

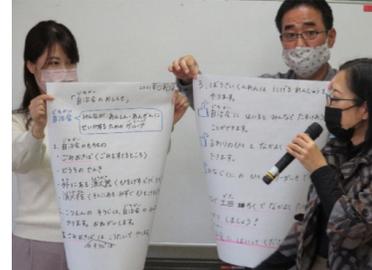
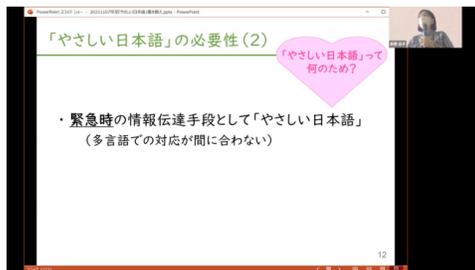
「やさしい日本語」とは何かを知り、在住外国人とのコミュニケーション・情報発信に活用する。

グループワークでは、実際に可児市役所地域振興課に翻訳依頼があった「自治会加入の案内」をやさしい日本語に置き換えて、発表した。

＜アンケートより＞

・「やさしい日本語」は簡単という意味だけではなく、「優しい”気持ちから出ることば。

・やさしい日本語が普及すれば、外国人はまわりの日本人に助けられる。外国人も困っている日本人を助けられる。明るい未来が見えました。



○取組事例②

多文化共生のまちづくり講座【第7回 令和3年11月28日(日)】

「多文化社会コーディネーター」の役割と講師の実践について。社会に目を向け、社会の仕組みを変えるという大きな目標を持ちながら、小さな成果の積み重ねや人との繋がりを持ち続けて活動すること、コーディネートすること。地域をどうしたいか、住民の意見を聞くことを大切に、まとめていくコーディネーターの存在の重要性。

＜アンケートより＞

・多文化共生は外国人のための施策ではなく、日本人含めみんなが暮らしやすい地域を作っていくこと、そのためには、日本人住民への意識啓発を含め総合的に支援・コーディネートしてする人材が必要。

・多文化共生社会では、コミュニティづくりが必要だと思った。自治会におけるコミュニティづくり。

・人間関係の構築が多様なニーズに対応する際に役立つ。(外国人だけではなく、日本人も)



○取組事例①

オンライン研修会【第1回 令和4年2月24日(木)】

コロナウイルスの感染拡大によって、オンラインでの日本語教室や講座の実施が広まってきたが、工夫した内容を取り入れることで、より効果的な教室展開ができるよう、便利なりソースやアイテムを学び、実際にグループに分かれてJam boardを体験した。

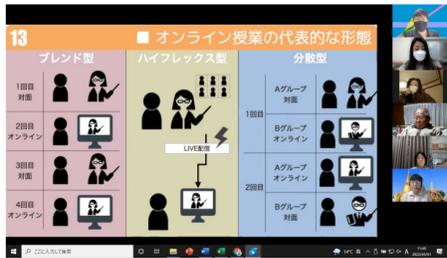
オンライン研修会の講座の中でもこの講座の申込みが一番多く、50人が参加した。

＜アンケートより＞

・さまざまなアプリやソフトを教えていただけたこともですが、それを使って何をするのか、どんなことができるのか、たくさんアイデアをいただきました。いま使っているソフトでもアイデア次第でいろんなことができるかと反省しつつ、どんなことをやったら楽しいかな？という視点で考え、それをするためには何が重要かと考えていくことの重要性を再確認させていただきました。

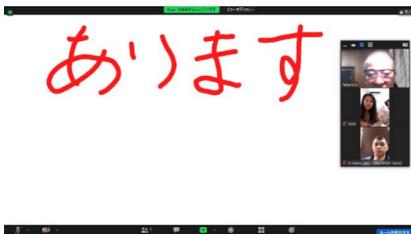
・実際に体験してみることができて、自分にもできるかもという自信が持てた。

・自分が何となく感じていたことより、はるかにいろいろなことができることがわかった。自分でも工夫してみたら楽しいだろうなと思った。学習者の学びが自ずと進んでいくように作られている資料を拝見し、私もそういう視点で資料を考えたい。



○取組事例②

オンライン研修会【第5回 令和4年3月12日(土)】
 前週に土曜日の支援者で計画した内容を実践した。会話のテーマは「家の中にあるもの」。
 [教室開始前]今日の内容・流れ・操作の確認→実践→[教室終了後]学習者へオンラインのアンケート・振り返り
 これまでのオンライン教室は、口頭のみでの会話・対話がほとんどだったが、研修での振り返りから、「ホワイトボード(実際のボードを用意・機能を使う)を使う」「イラストを使う」など工夫しながら実践している姿が見られた。また事前の打ち合わせや、事後の振り返りをする事で、支援者の不安を共有し、確認することができた。



(2) 目標の達成状況・成果

【まちづくり講座】
 本講座を実施する目標の中には、既存の日本語教室に関わる支援者を養成するためだけでなく、生活の中で学習者(在住外国人)に関わる人達の、多文化共生や在住外国人に関心を持つ地域住民を増やしたいという想いがあり、多文化共生に様々な視点のテーマを組んで講座内容を展開した。自治会や地区センターの行政担当課職員をはじめ、外国人住民が多く住んでいる地域の自治会関係者なども講座に参加してくださり、講座を通してこれまであまり関わることのなかった方たちと繋がりを持つことができた。受講者の何人かが講座終了後、当協会の子どもの支援教室やワタンバ(今渡日本語教室)に参加してくださるようになった。
 <アンケートより>
 ・外国の方との関わりの必要性を強く思いました。(自治会関係者)
 ・可児市に外国籍市民が多くいることを、日本人もわかっていながらどこか他人事を感じていると思うので、自治会長研修等を通じて地域のみなさんの理解を得られるようになっていきたい。日本語教室に参加させていただいたときに、実際に話してみることは重要で、楽しいと私は感じたため、地域のみなさんにもそのような機会に参加していただくと良いと思った。(行政職員)
 ・多文化共生って、正直ふわっとして何をするのか、難しいとおもっていましたが、現状や現実にある課題や問題を正しく理解する人が増えることが大事で、そうするとおのずと何をやらないといけないのかが見えてくるのかなと感じました。

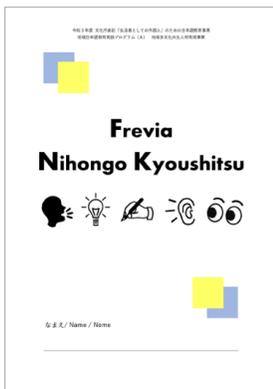
【オンライン研修会】
 オンラインでの教室展開が浸透する中、少しの工夫や効果的な方法を模索している支援者が多くなっていることを講座受講希望者の数から感じ、講座を通して多様な学びを得ることができた。受講者の一部は、講座の翌日からJamboardを使用していた。当協会の日本語教室の支援者とオンライン教室について意見交換・教室内容の計画→実践→振り返りをし、これまで口頭のみで実施してきた教室内容を、Zoomの機能を使用したり、事前にパワーポイントやホワイトボードを使用したりなどしている姿が見られた。実際にオンラインでの学習者からの反応や、オンライン教室について、開催の希望の有無、開催日時、教室内容の意見を聞くことができ、来年度以降の教室実施について考えるきっかけとなった。

(3) 今後の改善点について

【まちづくり講座】
 オンラインで実施することで、どんな状況であっても講座を実施することができて便利な反面、パソコンに慣れていない方にとってはオンラインでの参加は難しく、初回からオンライン開催となってしまったことで、申込はあっても参加に繋げることができずとても残念だった。当協会が受講者や可児市内で多文化共生を進めるために連携していきたい人と作り上げたい関係は、オンラインでは難しい部分もあった。しかし、地域の実情や、さまざまな視点からの多文化共生の取り組みを学ぶことができ、受講者にとっても今後の活動の“きっかけ”となったように思うが、今回の講座を踏まえて、今後は、受講自身が地域住民の一人として、企業・自治会等の地域内・行政・日本語教室などそれぞれの立場から、どう多文化共生に向けて働きかけていくのが重要であり、そこに協会として連携しあいながら、伴走できるよう働きかけていきたいと考えている。

【オンライン研修会】
 前半の講座内容について、関心が高い人が多かった。今回は基礎的な内容であったため、より発展的な内容の実施も今後検討していきたい。しかしその一方で、当協会の日本語教室の支援者を主な対象とし、オンライン教室実施の定着・支援者のスキルアップを目指し意見交換や教室内容の計画・実施をしたが、結果、当協会の状況は上記に記述した状況とは違い、日頃からZoomを使い慣れている主催者側と、月に1~2回程度しかZoomを使用しない支援者にとって、温度差があり、この講座の内容はハードルが高かったかもしれない。そもそも、これまで対面で教室に関わり、その良さを知っている支援者にとって、オンラインで教室を展開するということが自分自身がなかなか受け入れ難いと分かった。オンライン教室は今後も引き続き新しい教室形態の一つとして続けていくべきだと感じているが、何のために、誰と実施していくのかを運営側が改めて考えていく必要があると感じた。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：Frevia Nihongo Kyoushitsu】			
取組の目標	昨年度検証したポートフォリオの完成。 評価シートは、学習者に使用頻度をアンケートし、生活上の行為からこの地域に必要なものに絞り込んだものを活用する。		
内 容	<p>日本語教室内で使用するためのポートフォリオ・評価シートの完成。 従来より、日本語教室の学習者が、学習の記録や日本語学習の成果を記録することで、自律的な学習ができるような仕組みをつくるため、ポートフォリオに取り組んでおり、また、教室では、学習者の日本語での学習を可視化するために、評価シート(テーマに合わせたCan-doや教室での学習を振り返ることのできるシート)を教材として活用してきた。</p> <p>過去のプログラム(A)の取組の中では、1年目に評価シートを教材として作成した。しかし、作成した評価シートは、ポートフォリオの活用につながらなかった。</p> <p>2年目である昨年度、「さまざまな手法や評価について学ぶ研修会」の中で、日本語教室の支援者が教室内のポートフォリオの見直しを行い、その意義を理解することができた。また、学習者にも座談会でその有効性や意義についてヒアリングをし、理解が不十分なところは補足説明をした。 ポートフォリオは学習者の日本語学習について、教室の支援者と学習者の関係をつなげるものとして、そして、学習者が自律した学習につなげていくために、日本語教室で教材として活用していくことに決めた。さらには、評価シートについても、見直しを行った。</p> <p>3年目である今年度は、さらなるポートフォリオの活用方法や評価シートについて、日本語教室の支援者で今まで作成したものをベースに、Can-doの見直しと、評価について改善し、完成させた。</p> <p>それぞれの評価シートには、テーマについてのCan-doが2つ設定してある。学習者自身の日本語の目標設定、また、それをもとに、支援者が学習者の日本語学習に寄り添うきっかけづくり、学習者の日本語レベルの目安の把握、教室内のグループ分けの参考にするために、それぞれのCan-doにレベル★、★★、★★★を設定した。</p>		
実施期間	令和 3年 5月 27日～令和 4年 3月 18日	作成教材の 想定授業時間	1回 2時間 × 30回 = 60時間
対象者	日本語を学習したい人 (主に日本語教室に参加している学習者)	教材の頁数	42ページ
カリキュラム案活用	「生活上の行為の事例」と「日本語能力評価」、ポートフォリオ内の評価シートを参考とした。		
事業終了後の教材活用	日本語教室以外で活用し、今後は今回の教材作成に関わっていない支援者や、日本語学習者にも意見を聞き、改善と検証を繰り返していくことでよりよいものにしていきたいと考えている。		
成果物のリンク先	https://drive.google.com/drive/folders/1WeBbQX63hY-Nmwzh8na5LdiqPFQjOci?usp=sharing		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

誰もが安心安全な生活を送ることができるよう、在住外国人と日本人が「参加」・「協働」し、日本語教室を通じたまちづくりを進める。そのためには、日本人と外国人が集う日本語教室が必要であり、従来からある日本語教室と新設する今渡地区(市内集住地区)の教室を定着させ、地域住民がつながれる場を作る。

日本語教室に関わる支援者を増やし、また、多文化共生の意識を持った在住外国人や地域住民、支援者を育成するために、まちづくり講座を実施、コロナ等の事情により、教室とつながりをなくしてしまった学習者に、対面以外のアプローチができるよう、オンライン等多様な指導法を学ぶ研修を行う。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

今年度はプログラム(A)3年目、最終年であった。1年目から継続して日本語教育を実施し、コロナウイルス感染拡大という状況変化もあったが、通常の教室に加えオンラインという新しい形の日本語学習の場の提供と、ワタシバという地域に密着した場所で開催を定着させることができた。

また、本事業に関わる支援者を増やすための養成講座や、支援者のブラッシュアップを行ったことで、少しずつ関わる支援者が増えていった。支援者とは、学習者が地域で安心・安全に生活できるようになるために、日本語教室で今取り組むべきことは何なのかを考えたり、目標や目的を日頃から話し合い、すり合わせながら、教室のテーマなど教室内容だけではなく、教材作成も進めていった。その教材は、ポートフォリオや評価シート(Cando含む)という形となり、教室では評価シートを活用し、ポートフォリオは、学習者自身が評価シートを記録していくだけではなく、学習者の生活の中での日本語学習や活動の記録、疑問や質問を記録していくものとして活用できるよう学習者に働きかけ、ポートフォリオを通して学習者と教室支援者をつなぎながら、学習者の日本語学習を支援者がサポートできるものとして完成させることができた。

また、特に今年度は、日本語教育の中でも「まちづくり」に視点をあて、日本語教室の支援者以外の、行政や自治会、地区センターなどといった「生活者としての外国人」に様々な場面で関わる人々と、ワタシバや講座を通じてつながることができた。

可児市国際交流協会だけが在住外国人の支援をするのではなく、それ以外のより多くの人・団体が在住外国人に関わり、理解する人が増えたことが、「誰もが安心・安全に暮らすことができる」という当初からの目標に少し近づいたのではないかと感じている。

日本語教育事業は、日本語を教えることや「外国人」が、日本語を習得するということだけではなく、在住外国人に関わる地域全体が「日本語」を通じて安心・安全に暮らしていけるような多文化共生のまちづくりをしていくことが必要であると分かった。そのために、本事業で取り組んできたことを継続し、日本語教室やワタシバのような場所を可児市に増やしていくなど、今後もより目標達成に近づけるよう、取り組み続けていきたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

教室のテーマを決める際、標準的なカリキュラム案(黄色本)の「生活上の行為事例」を参考にした。日本語教室に参加している学習者の日本語レベルに合わせて、教室に取り入れやすいもの、より生活の中で使用頻度が高そうなものから順に選定した。また、能力記述の部分を参考に、評価シートのCan-doを作成した。当協会では評価シート(Can-doを含むシート)を教材として、教室運営をしてきたが、今年度を含むこれまで使用した評価シート内のCan-doとカリキュラム案の能力記述を活用し、評価シート内のCan-doを3年間かけて見直すことができた。日本語能力評価(オレンジ本)については、能力評価についての理解と、ポートフォリオの作成にあたり、参考にした。そして養成講座・研修では「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)改訂版 平成31年3月4日」における、日本学習支援者研修における教育内容と、日本語学習支援者に望まれる資質・能力を参考に、プログラムを組んだ。事業担当として、どのカリキュラム案においても、日頃から活用・参考にすることで、本事業の目標・目的からずれないように心がけていくものとしても、おおいに参考となった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

日本語教室では、地域の人を巻き込むことができなかった。コロナの理由が大きく、今後も状況によっては実施することが難しいかもしれないが、Withコロナの新しい方法で、できることを積極的に考えていきたい。まちづくり講座では、まちづくりを推進している行政担当者に依頼し、自治会関係者に参加促進をサポートしていただいた。そのおかげで、当協会とこれまで接点が無かった自治会関係者の参加もあり、地域の今後について協会・行政・自治会で一緒に考えることができた。ワタシバ(今渡日本語教室)に、講座を受講した自治会関係者が継続して参加してくださったり、ワタシバがある地域以外の地区からも、外国人とのきっかけづくりが欲しいと参加し、情報を探しに参加してくださった方もいた。当協会と参加者の方とが、ワタシバを通じて顔の見える関係になれたことで、フレビアにいたるだけでは把握できない、地域の実情や日本人住民の声を聞くことができるようになった。例えば、外国人が多く住んでいる地域の日本人は特に、生活の中で外国人を身近に感じている。それは、地域をまとめ、住民の声や意見を集約している自治会長の話から強く感じられた。ごみや騒音など、「外国人＝問題がある」として捉えるのではなく、どのようにすればお互いに理解を進めていけるのか、ごみや騒音などの課題も普段からの関係づくりが解決につながっていくのではないかと考えている地域も増えてきていることが分かった。しかしそこには、どの地域の日本人も「言葉の壁」を強く感じており、外国人も含めて、日本人と外国人をつなげるサポートする人材を育成することや、ワタシバのように交流したりつながれる場を、可児市内に広げていくことが必要ではないかと感じた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

日本語教室については、当協会が毎月発行している多言語情報誌(UNIDOS・MAGKAISA)、広報の多言語版、月2回配信のメールマガジン、フレビア・日本語教室の各Facebookページ内で情報発信をし、市役所の相談窓口でも案内してもらった。作成したチラシはフレビア、外国のレストラン・スーパー、ボクシングジム等にチラシを配布した。ワタシバではSNSアカウント(Instagram・Facebookページ)を作成し、在住外国人だけではなく、日本人の目にも止まるよう心掛けた。オンライン教室では、専用のFacebookアカウントを作成し、随時学習者からの質問・問い合わせに対応することができた。養成講座・研修については、上記の他、地区センターでの掲示、市役所・地区センター職員に情報が届くよう、市の電子掲示板に掲載、その他関係各所にチラシ設置及び配布した。

(6) 改善点、今後の課題について

可児市国際交流協会が取り組む「生活者としての外国人」への日本語教育事業は、外国人に対する日本語学習支援だけではなく、「生活者としての外国人」に様々な場面で関わる日本人側の意識の変容への働きかけも必要であると感じた。可児市では様々なものが多言語化され、日本語ができなくても生活・仕事ができる状態では、学習者自身に日本語学習の必要性は今後も感じられないように思う。その一方で、新築や中古の家を購入する外国人も増えていることから、今まで外国人が身近ではなかった地域にも外国人が住み始めることで、今後はご近所づきあいや、各自治体内での外国人と日本人の関係性が生まれてくる。もちろんそこには、常に通訳がいるわけではなく、翻訳されていることも少ない。フレビアで実施する日本語教室では、様々な地域から、多様な背景を持った学習者が参加しており、コロナの状況を見ながら今後も地域とのつながりを持った教室活動を展開していきたいと考えている。その一方でワタシバのように、その教室がある地域に住んでいる外国人と日本人の顔の見える場所、教室サポーターでなくても、地域の人が集まり、気軽に住民同士の交流できる場づくりを、ワタシバがある今渡以外の場所でも展開できるよう取り組んでいきたい。また、市内にやさしい日本語が広がることで、住民同士が日本語で会話する機会が増え、在住外国人自身の日本語学習への意欲とつながることを期待したい。

(7) その他参考資料

- ・チラシ1: 取組1 日本語教室(日本語・英語・ポルトガル語)
- ・チラシ2: 取組1 ワタシバ(今渡日本語教室)(日本語・英語・ポルトガル語)
- ・チラシ3: 取組2【養成】多文化共生のまちづくり講座
- ・チラシ4: 取組2【研修】オンライン研修会